

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員に於かれましては、心新たに清々しい初春をお迎えの事と、大慶至極に存じ上げます。

さて昨年十二月四日は恒例の「新田原航空祭」が絶好の晴天の下、県内外より大凡八万人もの観客が詰めかけて、大変盛大に開催されました。

次期F XもF 35に漸く決まり、四十年間領空を第一線で守ってくれた4EJファントムが老体に鞭打ち、轟音と共に天空を切り裂く様は誠に感動的であります。

F 15Jイーグルが全国で初めて配備されたのが新田原基地の第202飛行隊で、昭和五十七年十二月二十一日に編成完結され、マザースコードロンと呼ばれました。

その最新鋭機もデビュー以来三十年経過して、改修に改修を重ねて就役中ではありますが、「ラプター」の異名を持つF 22には全く歯が立たなかったそうです。

尤も子供手当以下の国防予算では、領海等を含めると世界六位の広大な国土を持つ我が国の防衛は偏に、陸海空自衛官の「祖国愛&士気」のみに頼らざるを得ません。

しかし中国、北朝鮮、韓国やロシア等、領土や領海で鬩ぎ合い内政にまで干渉してくる近隣諸国と対峙するには、彼らの「士気」に頼るだけでは甚だ心許なく感じます。

然るべく人員や装備そして兵站などの備えを万全にしてこそ、最前線で勤務に就く防人達は後顧の憂い無く、存分に戦えるものと信ずるところです。

ところで十二月十六日から沖繩に飛び、話題の与那国まで足を延ばして来ましたが、噂に違わぬ雄大な自然に囲まれた、東シナ海に浮かぶ所謂「絶海の孤島」でした。

那覇からは五〇九kmですが石垣空港経由で約四時間、面積は約二十九平方km、周囲約二十八km、人口約一六〇〇人、信号機も全く無くレンタカーで一周約三〇分です。

都井岬馬にも似た与那国馬と黒毛和牛が島内の全域に放し飼いの状態で、正に牧歌的そのものであり、東崎灯台の巨大な二基の風力発電機が悠然と回っていました。

東京は大凡一九〇〇kmの遙か彼方で、石垣島でさえ一一七km、そして晴れた日にはその姿が遠望出来る台湾島は、何と僅か一一kmの指呼の間でしかないのです。

主要道路の随所に「平和な島に自衛隊基地はいらない」や「歓迎・国境の島与那国に自衛隊誘致を」等の横断幕が掲げられ、曾てTVニュースで報道された島内を二分しての、町長選挙の激しさや凄まじさを想起させられました。

自衛隊駐屯地の候補地と云われている南牧場及び北牧場も見てきましたが、なだらかな丘陵地帯で、切り立った断崖の上でもあり、何れも甲乙付け難い好立地です。

若い隊員には娯楽施設もなく退屈かも知れませんが、マリンスポーツには事欠かず、古代のロマンを秘めた海底遺跡の謎などを解き明かしてくれるかも知れません。

昨年末に金正日総書記が突然死去し、今年十二月には韓国大統領選挙も実施予定で、ロシア、中国、米国等も政局含みで我が国周辺の緊迫した国際情勢の中、現在日本の舵取りに大きな不安を感じているのは私だけでは無いものと考えます。

今年も優先順位にメリハリを付け乍ら「選択と集中」を駆使しつつ、諸課題に挑戦し続ける所存につき、皆様の更なるお力添えを伏してお願い申し上げます。

平成 二十四年 一月 一日

宮崎県防衛協会

青年部会

宮崎支部長

小倉和彦

